

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	音楽療法型 多機能事業所 奏かなで			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 6日 ~ 2025年 2月 19日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2025年 2月 6日 ~ 2025年 2月 19日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	畑を所有していることから、室内だけでなく屋外でも運動能力を向上させるための活動が出来たり、季節を感じながらの五感を刺激し向上させる活動ができる。 野菜や果物などを実際に植えたり、収穫を行っている。自分たちが育てた野菜や果物を使って調理を行っている。	屋外では季節を感じれるよう、春はお花見、夏はプール・秋は虫取り・冬は氷の観察など、五感を感じれる活動が出来るようになっている。新しい食材を使い、匂いや触感、色の変化などを楽しみながら行っている。子ども達自身が食べてみたい、作ってみたい料理のレシピを調べて書き、活動として取り組んでいる。	屋外で感じた感覚を自分で記録として残せる絵画など、様々なプログラムとリンクさせた内容にしていく。 食育について、職員も学び、子ども達に伝えながら、食べることや調理することの楽しさ、身近な食べもの、調味料などを実際に作ってみて、どのように出来ているかを知る。
2	音楽療法では、歌ったり楽器を鳴らしたりすることでのコミュニケーション能力の向上を図るだけでなく、地域からの依頼にてステージに出ることで日常では味わえない緊張感を提供する事が出来る。	自分たちでテーマに沿った歌詞を考え、一つの歌をみんなで協力して完成したものを、地域のステージで発表する機会を持つようにしている。集団だけではなく個別の音楽療法を取り入れており、個々の能力に合った個別での課題に取り組む取り組みも実施している。	個別での計画を立てて課題や意向に沿った音楽療法にて日常スキルの向上やや楽器のスキルアップに取り組むことで、集団での音楽演奏が子ども達で出来るようになるよう取り組む。また、自分たちで曲を作り上げ自分たちで編集する挑戦を行うことで、達成感を提供できる企画を計画する。
3	バス体験、お買い物体験、水族館や動物園、消防署見学、クロネコヤマト配達体験など、公共交通機関や公共施設などに連絡や段取りを行い、日頃なかなか経験できない体験をすることができる。	将来を見据えた経験や、子ども達が興味のあるものや場所、将来の夢を聞き取り、実際に体験したり、話を聞いたりできる機会を作っている。	子ども達の興味のあることや将来の夢など話しやすい環境を作りながら、職員間で共有する。公共交通機関や公共施設の利用について積極的に企画する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間での情報共有、休みの職員や、午後からの勤務の職員への情報共有	児童が来所している時間や送迎に職員が出ている時間に出勤する職員については、細かな情報共有ができない。退勤時間も、バラバラなため次の日のミーティングに話し合うことになるが、休みや出勤時間がずれると伝えることが難しい。	日誌を有効活用し次の日休みの職員が引き継ぎたいことなど記載できるような工夫をしていく必要がある。
2	新人職員が多く入ってきたなかで、マニュアルの周知徹底が不足しているように感じる。	マニュアルは作成している虐待防止や嘔吐物処理、避難訓練等については内部研修を行っているが、実践などを取り入れた研修は行っておらず、事故発生時なども対応が遅れたり、冷静に対応できないことがある。	それぞれの場面を想定した、実践研修を行っていく。
3	事業所内の小さな段差	現在は段差について	段差がある場所に目印として、色を付けることを検討する。段差スロープの取り付けについて検討していく。